



一度の実践すべてがうまくいくことはありませんでした。実践と省察をくり返して、少しずつ目標子どもの姿を見ることができました！

一人一人が主体性を發揮できる学校づくり ～「自分と向き合い、考える子」の個の学びを追う～



私たち研究員は、子どもたちの「課題を自分事として捉え、試行錯誤しながら、粘り強く考えようとする姿」を目指して研究してきました。5人の実践を通して見えてきたのは、「学びのサイクル」の中で子どもたちの具体的な姿を丁寧に見取り、その実態に応じた手立てを講じることが、子ども一人一人の充実感や自己効力感を高め、主体性の発揮に向かうのではないかということです。下の図は、研究員の実践と「学びのサイクル」に必要な要素との関わりをまとめたものです。（詳しくは各研究員号をご覧ください。）

学びのサイクル

子どもに委ねるところと、教師が出るところのバランスを考えていきたいな。

クラウド活用（ICT）
Which型発問（道徳）
3観点の問い合わせ（道徳）
複線型の単元デザイン（社会）
追究の視点（社会）



子どもの疑問や思いを起点とすると、子どもたちの意欲が高まったな。

問い合わせ（国語）
学ぶ意義の共有（道徳）
見方・考え方を働かせた問い合わせ（社会）

① 発意

知りたい・やってみたい
心か動く・感動・不思議
もやもや・疑問

② 構想→構築→遂行・表現

どうしたらいいかな？ よし、これでやってみよう
これならできるかな？ 実際にやってみる

④ 次の発意



小さな成功体験を積み重ねて、
子どもは自信をつけるのではないか。

③ 省察

こんなことできた！
なぜうまくいかないの？



新たな問い合わせが、次の学びへ
向かう一步になる。

ふりかえりシート（ICT）
問い合わせの評価（国語）
OPPA（社会）
他者参照（ICT・社会）

「学びのサイクル」を支える土台（学びの集団づくり・見取り・支援）

自己をみつめるスキルトレーニング
(集団づくり)
ピア・サポート活動（集団づくり）



自己理解と他者理解の力が育つと、人生を豊かに生きる力も育ち、学びの集団作りが促進するね。

【参考】「学びをつなぐ希望のバトンカリキュラム」

研究員も実践をする中で、少しずつ「学びのサイクル」を意識することができましたが、まだまだ不十分な部分があります。これからも研究から見えてきた子どもたちの姿をもとに、子どもたちの学びに伴走しながら、一人一人が主体性を発揮できる学校づくりを追究していきたいと思います。

3月10日（月）まで研究動画を公開しています。HPよりご視聴ください。動画のパスワードがわからない場合や、3月11日（火）以降にもご覧になりたい場合は、研修課（0770-56-1302）までご連絡ください。

研究にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

個人研究テーマ

学びに生かすふりかえり
～クラウドを活用した取り組みを通して～

子ども一人一人がフォームを使って毎時間送信したふりかえりを「①1時間ごとのふりかえりが見える座席シート」、「②自分のふりかえりが時系列に集まる個人用確認シート」に反映させ、自他のふりかえりを可視化できるようにし、それを生かした研究を行った。

①1時間ごとのふりかえりが見える座席シート

13	6	7	9	3	4
Lさん	Fさん	Gさん	Iさん	Cさん	Dさん
5	2	15	14	11	16
Eさん	Rさん	Nさん	Mさん	Kさん	Oさん
【他者参照】					
○ふりかえりをフォームで送信すると、すぐに座席表に反映され、友達のふりかえりや疑問を自分に取り入れながら、学習を進めることができる。					
○クラウドを利用することにより、いつでも自分の手元で参照できる。					
23	24				
Vさん	Yさん				

②自分のふりかえりが時系列に集まる個人用確認シート

1 時間目	【自己評価】
2 時間目	○自身の考えの変化やできるようになったことなどが見えることで、成長をより実感しやすくなる。
3 時間目	○単元や学年が変わっても自分のふりかえりを見返すことができる。
4 時間目	
5 時間目	
6 時間目	

【子どもたちと授業者の声】

みんながどんなことを書いているのかが見れてとても嬉しかった。



自分自身の変化やできるようになったことなどに気づいた。



自分の考えと相手の考えを比べる事ができた。



ふりかえりをじっくり書いて学習していきたい。



○シートの導入により、子どもたちの思いやつまずきを一目で把握でき、教師が次の授業につなげやすくなった。
○人のいいところをどんどん取り入れようとする姿が増え、ふりかえりをすることの大切さを子どもたち自身がもらえられるようになってきている。

【フォーラムでの話し合いより】

ふりかえりについて、悩みや実践していることを意見交換し、

- ・ふりかえりを行うことで、子どもたちは自分の成長を実感し、学びに対して意欲的になる。
- ・他者のふりかえりを通じて気づきが得られ、授業への参加態度が向上する。
- ・ふりかえりを深めることで、学びの変容を実感できるようになる。

という気づきが得られた。

ふりかえりを活用することは学習の定着に役立ち、子どもたちの意欲を高める効果があるが、実施方法やフィードバックの仕方に関しては、試行錯誤を続けていくことによりよいものになっていくであろう。

【ふりかえりを表示するシートのテンプレート】お渡しできます。

- ・グーグル環境での利用を想定していますが、興味のある方は、研修課までお問い合わせください。



詳しくはHPよりA-5研究動画をご覧ください。



個人の研究テーマ

リフレクション型国語科授業

今年度、光村図書の教科書が改訂され、子どもが「問い合わせをもつ」ことが重要視されています。その理由について、子どもが問い合わせをもつことで課題を自分のこととして考えるためであると書かれていました。しかし、私の実践を振り返ると、初発の感想から子どもの疑問を取り上げ、授業を行ってきましたが、子どもが、自分事として学習に取り組んでいたとはいえないという反省があります。子どもが自分事として主体的に学習に取り組むためには、白坂洋一先生が提案されているリフレクション型国語科授業を取り入れることが有効であると考え、研究を進めました。（詳しくは HP より研究動画をご覧ください）

リフレクション型国語科授業とは

【子どもが問い合わせをつくり、問い合わせで読み合い、問い合わせを評価する活動】

【問い合わせの条件】

- ①本文からはずれない
- ②「～は～か。」という質問の形で

【問い合わせの読み合い】

- フレキシブルな学習形態での読み合い
- ☆実践では、誰とでも話し合える場を設定して進めました。

【問い合わせの評価】（問い合わせの項目）

- ①問い合わせはよかったです、その理由
- ②問い合わせで新しい発見はどんなことだったか、学べたこと
- ③次の問い合わせへの思い

研究仮説

リフレクション型国語科授業を取り入れることで、子どもが自分事として「問い合わせをつくり、「問い合わせで読み合うなど、主体的に学習活動に取り組むことができるのではないか

国語科での「自分事として主体的に学習に取り組む姿」とは

【一人一人が】



【読み合い】



単元計画【小5「たずねびと」】

教材の内容確認

問い合わせをつくる

問い合わせの決定
(3つの問い合わせ)1つの問い合わせで
読み合う

問い合わせの評価

2・3つの問い合わせで
読み合う

問い合わせの評価

考察・まとめ（一部を紹介します）

【問い合わせづくり】

○初めは、問い合わせをつくることができなかった児童も、繰り返すことで、問い合わせのつくり方を理解しつくることができた。

△教師の意図と違った問い合わせが、クラスで選ばれることがある。

△子どもが自分の問い合わせが選ばれなかった時、どう対応するか課題が残った。

【問い合わせの読み合い】

○子どもも教師も答えがわからない問い合わせであるからこそ、子どもは根拠を積極的に見つけ話し合うことができた。一人一人が根拠を明確にした考え方を交流することで、自分なりの解釈を持つことができた。

△全体での意見交流は、教師のファシリテートが重要になる。学び合いで、足りないと感じたところは教師が積極的に前に出ることが大切。

【事前授業】

問い合わせ	問い合わせ	問い合わせ
問い合わせ	問い合わせ	問い合わせ
問い合わせ	問い合わせ	問い合わせ

【たずねびと】

問い合わせ	問い合わせ	問い合わせ
問い合わせ	問い合わせ	問い合わせ
問い合わせ	問い合わせ	問い合わせ

問い合わせが増えました

【フォーラムより】「主体的な学びのために、大変重要なテーマであると感じました」「問い合わせづくりはもちろんだが、問い合わせの評価が今までになかった視点だと思う」「徐々にでも、質のよい問い合わせを生み出し考えていけるようにしていきたい」など、現場に即した貴重なご意見をいただき、私自身も多くを学ぶことができました。

研究テーマ

Which型発問 × 3観点の問い合わせによる道徳科授業づくり
～全員参加でライブ感とストーリー性のある授業を目指して～

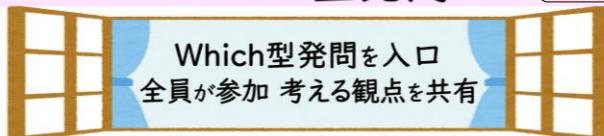
目指す子どもの姿

自分自身との関わりで考える姿
多面的・多角的に考える姿

Which型発問

授業づくり

3観点の問い合わせ



「健二は先生に本当のことを、言った方がいい？言わない方がいい？」
「聴の気持ちに一番近いのは、ニコニコ・シクシク・ンンンのどれ？」

「家畜のブタ・ペットのイヌ・野生のサル・動物園のパンダ
大事な命だと思う度数をそれぞれスケールに表そう。」

授業づくり



わかりきったことを話している
建前で話している

人間理解の問い合わせ
「そうは言っても、本当にできる？」

一面的にしか考えていない
ある面からの考えは深まった

他者理解の問い合わせ
「じゃあ、逆の立場から考えたらどう？」

価値の意義に向かっていない
人間・他者理解が深まった

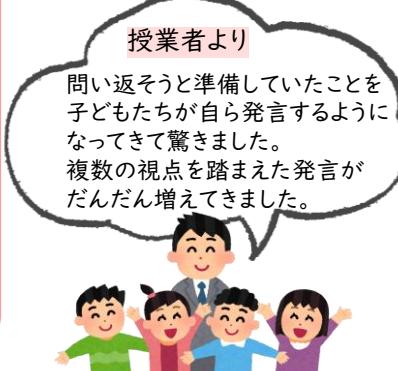
価値理解の問い合わせ
「そもそも、どうして大切なんだろ？」

Which型発問により、自分の立ち位置を自ら捉えて意思表示することができた。

3観点の問い合わせにより、何度も立ち止まって自己をみつめることができた。



授業で見えた子どもの姿



自分自身との関わりで考える姿

Which型発問により、多様な考えがたくさん引き出された。

3観点の問い合わせにより、思考がつながりながら、様々な視点から考えを深めることができた。



多面的・多角的に考える姿

フォーラムでの話し合い



問い合わせながら子どもの発言をつないでコーディネートするのが難しかったです。
3観点はつなぐためのヒントになりました。

子どもたちが自ら問い合わせ合うのがいいですね。

子どもたちお互いに問い合わせるような授業を私もしていきたいです。
次の道徳で、3観点を意識して問い合わせてみます。

子どもたちの飛躍した意見を無視したくないんですが、それにどう対応して、ねらいに迫るといいですか？



どんな意見も大切にしたいですね。
飛躍した意見に、どんどん3観点の問い合わせをしていくことで、本質に迫れたこともあります。

Which型発問と3観点の問い合わせで授業をやってみました。いつもよりもたくさんの子が積極的に発言しました。Which型発問って考えやすいと実感しました。



研究から見えてきたこと

★Which型発問で全員参加の授業にすることで、「みんなと話し合いたい」という意欲が高まり、子どもたちがどんどん自分の言葉で語り出す。

★3観点の問い合わせによってライブ感とストーリー性のある授業となり、子どもたち同士の考え方や、子どもたちの思考と道徳的価値をつなげていくことができる。

★目指す子どもの姿の「自分自身との関わりで考える」と「多面的・多角的に考える」が両輪となって道徳的価値についての理解を深めることができる。

★深い教材研究によって子どもたちの考えが深まることで、新たな問い合わせが生まれて主体的に考え出す。

詳しくはHPより
A-2研究動画をご覧ください。



詳しくはHPより
研究動画をご覧ください

「自己をみつめ、人とかかわる力」を育む～ピア・サポートで心をつなぐ～

実態把握

Research

現状

- ・アセス
 - ・SEL など
- 人とうまくかかわれない
失敗を恐れて行動できない
前向きに物事に取り組めない

計画
Planning練習
Training

Research

ふりかえり
Supervision活動
Peer Supportピア・サポートプログラム
を学校行事に取り入れる

9月 学校祭

0 5 10

①～⑩の質問それぞれについて、10段階のスケールで自己測定

「じぶんダイアログ」(自分を客観的にとらえる) 自己理解のスキルを練習

- | | |
|------------------|---------------------|
| ①嫌なことはNoと言える | ⑥一人の時間を楽しむことができる |
| ②自分の長所を言える | ⑦小さな挑戦ができる |
| ③自分が幸せだと感じる時間がある | ⑧無理やり相手に合わせようとしてしない |
| ④自分で自分をほめることができる | ⑨自分と他の人を比べない |
| ⑤なりたい自分をもっている | ⑩失敗しても自分を責めない |

「アーサーション」(自分も相手も大切にした付き合い方) 他者理解のスキルを練習

- ・I(アイ)メッセージで、自分の気持ちを誠実に伝える
- ・相手を傷つけない言い方、自分ができる提案をする

計画
Planning

- 目標を自分で設定(なりたい自分・集団)
- 問題点や課題を予想・共有
- 自分にできるピア・サポート活動を考える。

活動
Peer Support

- (日々の様子を観察)
(子どもの振り返り等を確認)

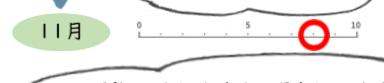
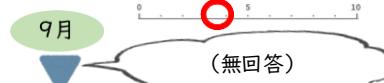


- うまくいったこと、いかなかったことを共有
- よりよい自分・集団になるために、自分にできること
- この行事で得たことを、どう生かすか

日常に活かす、次のピア・サポート活動へ

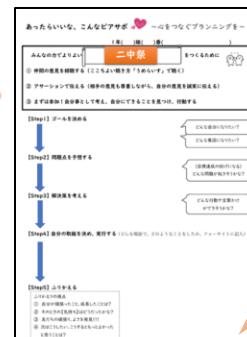
11月 合唱コンクール

<子どもの声> (⑦についての回答)



運動のときなど、自分が得意なことをする時は、どんどん挑戦できるけど、苦手な事(勉強など)は、なかなか挑戦できない。

今まで自分の気持ちを直接言ったりはしなかったけれど、その中には言ってはいけないことや、言ったほうがいいこともあるので、それを考えながら生活していきたい。



僕は学校祭の前の自分と学校祭後の自分を比べて、誰かのために動けるようになったと思います。自分の気持ちも相手の気持ちもよくなるので、これからも心がけたいと思います。僕は学校祭で仲間の大切さを改めて実感しました。これからは誰よりも仲間を大切にできる人になりたいと思います。(ワークシートふりかえりより)

名田庄小

- かかわりの質と量を確保する取り組み
- ・全校アドシャン
- ・自己表現ワークシート
- ・3つの窓
- ・アダプテッドスポーツ

野木小

学活の年間指導計画にポジティブ教育を記載。
子どもの実態に合わせて、教材を最適化。

大飯中

校区内の3小学校と共に、系統立てた福井県版
ポジティブ教育プログラムを実践。



フォーラムのセッションは
R-cafe形式5校の実
践をお聞きし、交流を通し
て学びが深まりました。

三宅小

実践前に教員が福井県版ポジティブ教育プログ
ラムを体験し、良さを実感、共有。

気比中

行事でピア・サポート活動の実践。
「24の強み」カードの活用



目の前の子どもの実態に合わせて、「まずはやってみる!」ことが大切だという気づき
があった。また、先生方と「子どもを大切にしたい」という思いを共有することができた。教職員や学校はどうあるべきか、どうかかわるべきか今後も考え続けていきたい。

研究やフォーラムを通して見えてきたこと

安心感

価値づけ

つながり

- ・子どもは「人とつながりたい・かかわりたい」「人とうまくかかわるようになりたい」という気持ちを持っている。
- ・先生からのコメントが「見てもらっている」安心感や心の支えとなるので、価値づけをすることが大切である。
- ・他者の良さに目がいき、自分を認められない子どもたちがいる。基本的自尊感情の醸成は今後の課題である。

研究テーマ：子どもが自ら追究する社会科の単元デザイン

こんな手立てで授業づくりをしました！ 目指す子どもの姿：自ら問い合わせ追究する姿

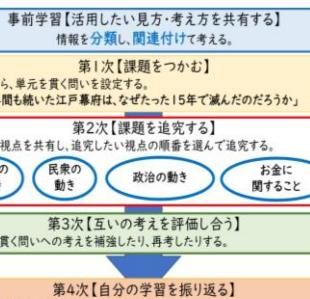
- ①指導計画(子どもが注目するであろう追究の視点を予想、OPPAを用いたワークシート作成、学習の進め方の整理)
- ②教師から提供する資料のデータベースを事前に準備
- ③単元の導入で追究の視点を子どもと共有
- ④子どもの学習の見取りを記録→実態に応じて単元計画の修正

「すべての子どもが学習のスタートラインに立つこと」を意識して準備、実践しました！

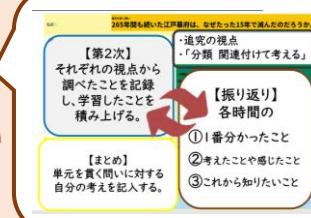


実践した中で、こんな子どもの姿が見えました

単元を貫く問い合わせ：「265年間も続いた江戸幕府は、なぜたった15年で滅んだのだろうか？」



子どもが注目した、複数の追究の視点から



複線型の単元に挑戦！

追究！

OPPA
の手法を用いた
ワークシートを
使って学習を進める！

教科書で
タブレットで
データベースで
友達に聞いて

幕府の滅亡には何らかの形
で外國の動きがかかわって
いると考えました。



他の時代での政権交代と、
江戸幕府の滅亡について、
どんな共通点やちがいがあるのだろう？考えてみたい。



調べたことを関連付けて考える姿

新たな問い合わせを見つける姿

フォーラムで語り合いました！



実践の様子から、社会科の学びを追究する
子どもの姿は、本来複線であると捉えました。



みんなが学習のスタートラインに」という言葉は、どの校種でも必要になってくる考えだと思いました。

今回の実践を参考に、追究の視点を共有して、子どもにゆだねる複線型の授業を、他の単元でもやってみようと思います。

研究実践やフォーラムを通して分かったことや感じたこと

- ・社会的な見方・考え方を働かせた「単元を貫く問い合わせ」と、解決への見通しである「追究の視点」を共有することで、子どもが教科の学びに向かって自ら動き出すことにつながる。
- ・調べたことを関連付けて考えることで、問い合わせに対して多様な考えが生まれる。
- ・新たな問い合わせが、次の学習へ向かうきっかけとなる。
- ・社会科を学ぶ子どもの姿は、本来複線であるという捉え方。

複線型の単元デザインに取り組んだからこそ、教師が子ども一人一人にアクセスする機会が大幅に増え、個の学びを追うことができました。子ども一人一人の学びをどのように支えたか、ぜひHPから研究動画をご覧ください！

